今日はコンサート気分で 第2回　2005.10.9　コンセルトヘボウ

内田光子とハーゲン弦楽四重奏団演奏会

プログラム

今日は一夜のコンサートを全曲聴いていただくシリーズ“今日はコンサート気分で”の第2回目です。今回は2005年10月9日に、アムステルダムのコンセルトヘボウ・リサイタルホールで行われた内田光子とハーゲン弦楽四重奏団による室内楽コンサートをお届けします。当日はもう一曲ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第13番が演奏されましたが、時間の関係で入り切らないため割愛させて頂き、別のコンサートで演奏された2曲の室内楽をお届けします。
我が国を代表する名女流ピアニスト、内田光子は1948年静岡県熱海市生まれ。1970年のショパン国際ピアノ・コンクールで第2位を受賞後、拠点をロンドンに移し、ロンドンや東京で行ったモーツァルトのピアノ・ソナタ連続演奏会が高い評価を受け、フィリップスに録音したモーツァルトのピアノ・ソナタとピアノ協奏曲を全曲録音で国際的な名声を獲得しました。今回のシューベルトは得意のレパートリーでさすがですが、ブラームスでの緊張感に富んだ熱い演奏も聴きものです。ハーゲン弦楽四重奏団は1980年にオーストリアで結成され、第2ヴァイオリンがライナー・シュミットに代わりましたが、ルーカス（vn）、ヴェロニカ（va）、クレメンス（vc）のハーゲン3兄弟が中心となり、今日まで世界的な四重奏団として活躍しています。「ノットゥルノ」は演奏される機会の少ない作品ですが、1826年に作曲され、単調ながらもシューベルトらしい美しさを持つ小品。「4つの即興曲」は1827年の作で、シューベルトの叙情性が最もよく表れた名曲です。バーバーのこの名旋律の原曲は弦楽四重奏曲の第2楽章として1937年に作曲されましたが、後に弦楽合奏用に編曲、「バーバーのアダージョ」として有名になりました。今日は原曲の弦楽四重奏版でお聴きください。ブラームスのピアノ五重奏曲は作曲者の室内楽を代表する作品で、ブラームス特有のメランコリックな叙情や情熱的な高揚感など、魅力に溢れた傑作です。

＊＊＊＊＊＊＊

フランツ・シューベルト（1797～1828）：
三重奏曲“ノットゥルノ”変ホ長調D.897
内田光子（P）/マーク・スタインバーグ（Vn）/クレメンス・ハーゲン（Vc）
（2011.8.10 ザルツブルク・モーツァルテウムでのLive）

2005.10.9　コンセルトヘボウ室内楽コンサート

フランツ・シューベルト（1797～1828）：
4つの即興曲D.899
第1番ハ短調／第2番変ホ長調／第3番変ト長調／第4番変イ長調
内田光子（P）
（2005.10.9 アムステルダム・コンセルトヘボウ・リサイタルホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

サミュエル・バーバー（1910～1981）：
アダージョ（弦楽四重奏曲op.11～第2楽章）
エマーソン弦楽四重奏団
（1999.7.20 アイヒシュテット旧市立劇場でのLive）

2005.10.9　コンセルトヘボウ室内楽コンサート

ヨハネス・ブラームス（1833～1897）：
ピアノ五重奏曲ヘ短調 op.34
内田光子（P）/ハーゲン弦楽四重奏団
（2005.10.9 アムステルダム・コンセルトヘボウ・リサイタルホールでのLive）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/